

# さわやか多中

多治見中学校  
校報 No. 9  
R 6. 12. 2

令和6年度 多治見中学校 合唱祭

11月29日



多治見中学校アリーナにて、合唱祭を無事終えることができました。どの学級も学級の個性や歴史を感じられる合唱となっていました。

合唱祭スローガン『轟け～ 一人一人が誇りをもって高みを目指し、想いを届ける合唱～』

## 1年学年合唱「マイバラード」

<学校運営協議会員 さん>

学年全員が並んだ様は迫力があって、さすが多中という感じがしました。合唱が好きな得意な女の子が、周りを巻き込んで取り組む姿が想像できました。来年、再来年が楽しみです。

## 2年学年合唱「青葉の歌」

<学校運営協議会員 さん>

2年生全員の将来を思わせる力強い輝かしい合唱に身体がふるえました。こんなにも全員合唱のすばらしさを感じたこの瞬間とても幸せであり、大きな勇気をもらいました。きらきら輝く青葉のように前に向かってはばたいて行ってほしいと思いました。頼もしい2年生です。

## 3年学年合唱「あなたへ」

<講師 先生>

さすが3年生という合唱ですね。丁寧な部分は丁寧に、盛り上がるところはたっぴりと、それぞれの音楽の部分の特徴を生かした表現になっていました。のびのびとうたうその表情も後輩の良いお手本になっていくと思いますよ。素敵な合唱をありがとうございました。

<文化委員長 さん>

皆さん、今回の合唱祭はやり切れましたか？

私はどのクラスの合唱も熱意や思いが感じられ、常に高みを目指して取り組んできたことが伝わってきました。それは、昼休みや帰りの会、帰りの会後の時間など、それぞれのクラスが合唱を全力で取り組み、一丸となってクラスらしさを表現するために、指摘し、要求し合った成果だと思います。

合唱祭を迎えるまで、きつと順調な練習ばかりではなかったかもしれません。パートリーダーや指揮者、文化委員はクラスの合唱が、どうしたら良くなっていくのか真剣に考え、クラスと向き合い、今日を迎えたと思います。それらは全て思い出として、誇りとして皆さんの心に残ったでしょう。今日、クラス、学年、そして全校として一つの声となり、心をつにして歌い上げました。集団として、全校としての集大成を感じる1日だったと思います。この経験を活かしてこれからも多中の文化として合唱を多中生全員でさらにより良く、高みを目指して突き進んでいきましょう。

## 多中生のがんばり

## ～ おめでとう ～

### Asian Jump Rope Championships 2024

アジアジャンプロープ選手権大会 2024/7/23～29

チーム名：破天荒 1年 さん  
ダブルダッチペアフリースタイル 3位  
ダブルダッチ総合 2位

### 第82回多治見市美術展 10/25～27

洋画部門 入選 「ただいま」 3年 さん

### 岐阜県中学生卓球新人大会 11/3

女子団体 ベスト8 さん さん さん さん  
さん さん さん さん

### 第54回岐阜県中学校剣道新人大会 11/4

多中剣心会男子 準優勝 2年 さん さん さん

### 第52回岐阜県中学生ソフトテニス新人大会 11/9～10

ダブルス男子選手権の部 優勝 ペア 準優勝 ペア  
シングルス男子選手権の部 2位 さん 3位 さん・ さん

学校では、生徒会執行部・専門委員長=MSJリーダーズを中心に「あいさつで絆の日」に地域の方とともにあいさつをしました。たくさんの生徒とのあいさつをかわし、元気な声が飛び交いました。グータッチあいさつは、今年度広がりがつつある姿のあいさつです。この「あいさつで絆の日」の活動は多治見中学校から発信してスタートした活動です。

**第2回 資源回収11月10日(日) ご協力ありがとうございました。**

今回は2年生が小学校での積み込み作業を行いました。自ら仕事を見つけ、進んで働く姿に、「何年生ですか?」「2年生です」と地域の方からもよく働く多中生として皆さんの働きぶりにとても感謝して見えました。2年生の皆さんご協力ありがとうございました。**今回の収益金は、201,876円**でした。1回目よりは少なかったのですが、昨年度よりは4万円ほど多く集まりました。地区委員の皆様、地域の皆様ありがとうございました。  
次回 = 第3回 資源回収 1月19日(日)も、よろしくお願いいたします。

**12~1月の主な行事予定 【日程や実施方法が変更される可能性があります。】**

<p>&lt;12月&gt;  <b>12月2日(月)~9日(月) 三者懇談、45分短縮日課</b>                  11/27(水)~4日(水) <b>ひびきあい週間「ひびきあい活動」</b>  <b>あったかい言葉かけ県民運動</b> (朝活動)                  4日(水)~5日(木) <b>K組職場体験</b>                  11日(水) <b>多治見市音楽祭(パロー文化ホール)2年生</b>  <b>2年生弁当</b>  <b>ブルーベリー職業Web講話1年生⑤⑥</b>                  12日(木) 1. 2年Hyper-Qu 実施  <b>薬物乱用防止講座3年③</b>  <b>PTA実行委員会・役員推薦委員会19:30</b>                  13日(金) 全校研究授業2年D組英語⑤、全校研究会                  16日(月) 生活アンケート 生徒集会⑥                  17日(火) 連携校研修1B                  18日(水) <b>3年生保育実習(董幼稚園3クラス)</b>                  20日(金) <b>3年生保育実習(大和幼稚園2クラス)</b>  <b>食物アレルギー生徒研修会15:30~16:00</b>                  25日(水) 大掃除                  26日(木) 冬休み前全校集会  <b>27日(金)~1月6日(月) 冬休み</b>  <b>27日(金) 多治見市連合生徒会交流会 9:00</b></p> <p>※ <b>12月の学費等の引き落としは、10日(火)。</b>                  ●「毎月の給食費・学費・研修費等」については、当初の予定通り「1月」まで引き落としさせていただきます、「2月 調整月」とさせていただきます。</p>	<p>&lt;1月&gt;  <b>~1月6日(月) 冬休み</b>                  7日(火) 冬休み明け全校集会、5期(~/3/26)                  書き初め交流・審査  <b>9日(木) 3年生 期末テスト①(4教科)</b>  <b>10日(金) 3年生 期末テスト②(3教科)・命を守る訓練</b>                  13日(月) 成人の日(祝日)                  14日(火)~ 大一番活動開始                  14日(火) 1.2.3年実力テスト                  15日(水) 生徒会委員会⑥                  16日(木) <b>PTA 広報委員会 18:30</b>                  16日(木) <b>PTA 実行委員会・役員推薦委員会 19:30</b>                  19日(日) <b>第3回資源回収&lt;収集場担当:1年生&gt;</b>                  予備日:知事選挙のためなし                  20日(月) 中学校説明会&lt;新1年生保護者&gt;                  22日(水) 道徳計画訪問1E⑤                  27日(月) 中学校区懇談会(滝呂小)  <b>29日(水) 多中教育の日・授業参観</b>  <b>第4回学校運営協議会 14:00</b>  <b>30日(木) R7 地区委員選出(報告)〆切</b>  <b>期末テスト前部活・クラブ停止期間~2/6</b>  <b>31日(金) 市教研(家庭)2年生どこかのクラス⑤</b></p> <p>※ <b>1月の学費等の引き落としは、10日(金)。</b>  <b>1/4(土)~2/9(日)企画展「思春期の心」</b>  <b>多治見中学校3年生の茶碗 美濃焼ミュージアム</b></p>
--	--

**「できない」そうではなくて「にがて」なんだよ 親育ち4363たじみプラン 事務局**

例えば、「一定の時間、席に着いて話を聞く」など、「できてほしい何か」が十分にできていない状況の子に、できる方向へ歩んでほしいと願うとき、私たちは、その子に様々な声をかけます。いたわり、なぐさめ、叱咤、激励、指摘、叱責…。

そういうとき、「どうしてできないの!」など、「できない」と断じてしまう言葉からは、相手への否定が伝わってしまいます。その子の成長への期待があったとしても、それは伝わりにくく、むしろ見放されたという断絶のメッセージすら伝わりかねません。

一方「にがてだね」という言葉には、どこか温もりがあります。その人の状況を理解し、共に考えようとする、共感と励ましのメッセージが伝わります。

「君は『できない』んじゃないんだよ。そのことが、少し苦手なだけなんだよ」

「そうか、ぼくは、『できないだめな子』じゃないんだ。ただ、苦手なだけなんだ。ドッチボールが苦手なように、ちゃんと座っていることが、苦手なだけなんだ。」

こういう感覚を、その子自身と、周囲の仲間や大人が共有できるとき、そこは誰にとっても優しい空間です。お互いが違うことへの理解や共感、異なる他者と折り合って生きる力、その子自身の自己肯定感が培われるのは、そういう場所ではないでしょうか。  
(教育推進課 家庭教育担当)